

武藏野大学でめざす 言語聴覚士

Speech-Language-Hearing Therapist



専攻科 | 言語聴覚士養成課程
※入学対象：4年制大学卒業以上

大学院 | 人間社会研究科 人間学専攻 言語聴覚コース

言語聴覚士とは？

Speech-Language-Hearing Therapist

言語聴覚士(ST)は、理学療法士・作業療法士などと並ぶリハビリテーションの専門職種の一つで、言語・コミュニケーション及び摂食嚥下機能に関するエキスパートです。成人から小児までを対象に失語症・高次脳機能障害・認知症・発達障害・構音障害・吃音・聴覚障害や摂食嚥下障害がある方に対して、医療・介護・福祉・教育など様々な立場からリハビリテーション・サービスの提供を行います。

高齢化社会が進む現代社会では、これらの障害を抱えリハビリ・支援を必要とする方は少なくありません。言語聴覚士の有資格者は2024年3月末時点で約41,000名。今後ますます言語聴覚士のニーズが高まり、活躍の場が求められます。

Check!

ますます広がる活躍の場

資格取得後は、医療機関、保健・福祉、教育の各分野での活躍が期待されます。



日本言語聴覚士協会会員の所属機関

医療	60.53%
医療 / 介護 (複合)	17.43%
介護	6.51%
福祉	4.92%
医療 / 福祉 (複合)	2.26%
養成校	2.13%
医療 / 介護 / 福祉 (複合)	1.33%
研究・教育機関	0.76%
学校教育	0.57%
その他	3.56%

（日本言語聴覚士協会ホームページより）

未来の言語聴覚士へ

専任教員 上間 清司



武蔵野大学に言語聴覚士養成課程が開設してから10年が経ち、今ではたくさんの修了生たちが臨床現場で活動しています。この間、言語聴覚士を取り巻く環境は変化してきましたが、私たちは変わらず、「臨床」と「研究」の両方を担える言語聴覚士の育成を目指してきました。

専攻科の養成課程だけでなく大学院も併設し、多様なバックグラウンドを持つ学生がともに学ぶ教室は、学問的な問い合わせみんなで突き詰める機会に恵まれています。病院だけではなく、幼稚園や小児施設など、実習先が充実していることも大きな特長です。また、日々の学びにおいては、わからないことをいつでも教員へ聞きにいける環境が整っていることがいちばん大事な点かもしれません。国家試験合格はもちろんのこと、資格取得後に専門家として自ら日々成長し、臨床的視点から学術活動に参画できる言語聴覚士を目指し、教員が精一杯の支援をし、学生と並走しています。

今後は、現在の主たる臨床現場である医療機関や療育施設だけではなく、教育現場など新しい領域にも、言語聴覚士を輩出していきたいと考えています。言語聴覚士は、多職種と関わることが非常に多い職業です。相手の意見にしっかりと耳を傾け、かつそれを自分の言葉で考えて、意見をしっかりと述べることでできる誠実さが求められます。授業でもグループワークや他学部とのコラボレーションを取り入れ、現場での実践を見据えた学びの機会を提供しています。

言語聴覚士は“対人支援の専門職”です。人間とは何かという人間学の視点から“人”に興味があり、人を支援することにやりがいを持てるような、献身的な活動に関心がある方、そして言語聴覚療法を学問的に突き詰めていけるような、知的探究心を持っている方たちをお待ちしています。



これから言語聴覚士の資格取得を目指したい



すでに、言語聴覚障害に関する基礎知識と、研究したいテーマがあるので、言語聴覚士の国家資格取得に加えて修士号を取得したい。

No

まずは言語聴覚士の国家資格取得に集中したい

Yes

本学で学べる2つの課程

すでに言語聴覚士の資格を持っている

3年以上言語聴覚士として臨床経験があり、かつては具体的な研究テーマを持つている。職場への影響を最小限にして、短期間で修士号を取得したい。

Yes

総合大学で資格取得を目指せる唯一の養成課程

専攻科 言語聴覚士養成課程

人のために働く喜びを抱いて9年

早稲田大学人間科学部卒業／専攻科 言語聴覚士養成課程 2016年3月卒業 高橋美夏さん

専攻科の1期生として卒業し、言語聴覚士として働いて9年目になります。もともと福祉や心理の仕事に興味があり、最初に通った大学では臨床心理士を目指していました。ゼミで発達障害という目に見えない障害があることを知り、その方たちに関わるような資格を取りたいと思い言語聴覚士を目指すことにしました。そのとき探してヒットした武蔵野大学が、ちょうど1期生を募集していることに惹かれて入学を決めました。

専攻科には、しっかり学んで資格を取ってその先もしっかりやりたいことのある熱心な方たちが集まっていました。大学を卒業した幅広い年齢の方と会話する機会がたくさんあり、社会のことをいろいろ知ることができました。普通の専門学校と比べると、ただ勉強して資格を取るだけでは得られない、人としての深みが出た気がします。

学生の頃から地域に出たい気持ちが強かったので、今は訪問看護ステーションで働きつつ児童発達支援事業所でも非常勤で勤務しています。現場に出ると最初はすごく大変な言語聴覚士という仕事ですが、人のためになったなと感じる瞬間がすごく嬉しいですし、素晴らしい仕事だと思っています。今まで自分のことで精一杯でしたが、10年目に突入するなかで、後進の言語聴覚士たちのために何か力になれるなどを模索し始めています。



国家資格と修士号の取得を目指す2年制コース

現職者向け / 年制短期コース

大学院 人間社会研究科 人間学専攻 言語聴覚コース

特別支援教育を開拓するパイオニアとして

信州大学教育学部卒業 大学院 人間社会研究科人間学専攻 藤田芝圭美さん

大学卒業後、小学校教員を経て山梨県のろう学校教員になりました。そこで初めて言語聴覚士という仕事を知り、難聴児に専門的知識をもって支援ができるようになりたいと思い武蔵野大学大学院2年制コースに30代後半で入学しました。様々な社会人経験を経た仲間達の貪欲に学ぶ姿や、言語聴覚士として一線で活躍されている講師の授業に刺激を受け、何歳になっても新しい分野を学ぶ楽しさを感じる日々でした。特定課題研究は、教員経験を生かして、リアルタイムで字幕をつけた情報保障の授業を中学校で行い、難聴生徒とクラスメートの“みんなに役立つ支援”に向き合いました。また学会での発表を経験し、研究として実践をまとめていく事を学びました。

現在は、国立附属の聴覚特別支援学校で、言語聴覚士として働いています。まだ学校に言語聴覚士が正規職員として常勤しているケースは少なく、特別支援教育での言語聴覚士の役割を模索しながらの日々です。でも子どもたちが日常を過ごす学校という場には、教育的な視点だけでなく、言語聴覚士の専門的な知見が絶対に必要だと思っています。教員と一緒に日々子どもたちに寄り添い、医療と教育を繋いでいく学校言語聴覚士として頑張っていきたいです。



在校生の声 (2024年度時点)

意欲と知的好奇心が満たされる学びの場

筑波大学人文学類卒業／専攻科 言語聴覚士養成課程1年生 金原彩織さん

幼いころから脳科学など理系分野に興味があり、大学では言語学を専攻しました。卒業後は地元の公務員として10年勤めました。仕事をしながら一生このままこの仕事を続けるのか迷い、自分の興味に立ち返って選択肢を考えたとき、言語聴覚士という国家資格があると知って挑戦してみたいと思いました。

大学にするか専門学校にするか悩みましたが、学問的にも詳しく学びたい願望があるので、大学の中に専攻科のある武蔵野大学に決めました。一人一人の先生方がしっかり深いところまで教えてくださり、表面的な学びにとどまらずきちんと理解ができるることはとても楽しく、このコースに来てよかったです。意欲のある方、知的好奇心に溢れる方にはとてもいい環境だと思います。とはいえ、課題やテストは比較的多いです。気づくと課題で終わってしまうような日もあります。私は休日にはほどよく出かけたり、美味しいものを食べたり、自分で自分の機会をとって頑張っています。

いろいろなジャンルに興味があるので、今の時点ではここだという領域を絞らずに幅広く勉強して興味関心を広げていきたいながら、卒業後の進路について考えていきたいと思っています。



学びの過程で変化した子どもたちへの目線

武蔵野大学人間科学科卒業／専攻科 言語聴覚士養成課程1年生 植木菜月さん

武蔵野大学の人間科学科から進学しました。学部在学中は、発達心理学や臨床心理学、他に生命科学の勉強をしていました。漠然と、何か子どもたちに関わっていく仕事をしたいと思っていたことと、人の話を聞くことが好きだったため、カウンセラーや臨床心理士、公認心理師を目指そうかと思い、参加したオープンキャンパスで、言語聴覚士の仕事を知りました。この仕事でも子どもたちに関わることができるなど、興味を持ちました。

また、大学在学中には、放課後等デイサービスでアルバイトを始めました。最初は喋ることができなかったり自分の名前を呼ばれても返事ができなかったりした子がいたのですが、言語聴覚士のサポートを受けてだんだん返事ができるようになります。おしゃべりもすごく上手になっていくのを目の当たりにし、「ああ、すごく素敵なお仕事だな」と思い、言語聴覚士を目指すことに決めました。

授業では、幼稚園と保育園へ見学に行かせていただきました。それまではやはりどこかで、子どもたちは教えてあげなきゃいけない、助けてあげなきゃいけない存在だと思っていたが、養成課程での学びを通して、子どもたちは自分で学ぶ力がある、教えてあげるだけの存在ではないということを実感しました。将来は小児の道へ入り、子どもたちのやりたいことを尊重できる言語聴覚士になりたい。そのためには頑張っていきたいなと思っています。



教育の特長

1 職能教育と学問の両立

専門学校とは異なり、資格取得を目指すのみではなく将来的に臨床研究を目指す人材を育成します。

2 教育・研究・臨床の総合機関

教育機関であるばかりでなく、西東京地区を中心とする臨床と研究の拠点を目指します。

3 附属幼稚園との連携

本学の附属幼稚園とも連携し、幼稚園での1日見学に加えて、園児を呼んでの評価演習や教員による発達相談の見学などを通して、学内にいながら、小児臨床の経験を積むことができます。成人領域にとどまらない、小児・聴覚など幅広い領域への見学・臨床実習を行っています。

More...

各領域の第一人者による特別講義

通常の授業・演習に加えて、各領域のエキスパートをお招きした特別講義も実施しています。特別講義では、身体介助やAAC(拡大・代替コミュニケーション)など実技・体験を組み込んだものも多くあり、机上の学びだけではなく、体を動かしながら学ぶことのできる貴重な機会となっています。

学校内の教員による臨床見学

専任教員や本学を修了した先輩STが、近隣住民を対象とした相談・支援を実践しており、学生たちの臨床見学や卒後教育のフィールドとしても活用されています。

資格取得後を見据えた就職説明会

就職支援として、本学と関わりのある施設を中心に、学内での就職説明会を開催しています。STとして現場で働いている先輩のお話を直に伺う機会でもあり、資格取得後の自身のキャリアを考えるきっかけになっています。

4 高い国家試験合格率

総合大学である本学では、言語聴覚士以外にも薬剤師や看護師、社会福祉士などのさまざまな国家試験においても高い合格実績を収めており、国家試験合格までの道のりを大学として徹底的にバックアップしています。

言語聴覚士国家試験 100%
直近2年間の合格率
※ 2025年時点



最新の情報はホームページからご確認いただけます。

Check! 手厚い国試対策

国試対策講座をはじめ、模試にチャレンジする機会を多く設定し、到達レベルを確認しながら勉強を進められるようにしています。分からぬところをすぐに教員に質問できる距離の近さも魅力の1つです。



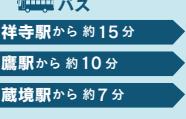
「専攻科 言語聴覚士養成課程」および「大学院 人間社会研究科人間学専攻 言語聴覚コース」の通学は武蔵野キャンパスとなります

通学キャンパス

武蔵野キャンパス

〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号

交通アクセス



武蔵野キャンパス

お問い合わせ

武蔵野大学入試センター

TEL : 03-5530-7300 MAIL : nyushi@musashino-u.ac.jp URL : <https://www.musashino-u.ac.jp>